

中土佐町地域公共交通協議会

地域内フィーダー系統
事業評価(平成26年度)

中土佐町基礎データ

合併状況：平成18年1月に1町1村が合併
人口： 7,532人(平成26年11月現在)
面積： 193.40平方キロメートル
※平成22年国勢調査としてください。

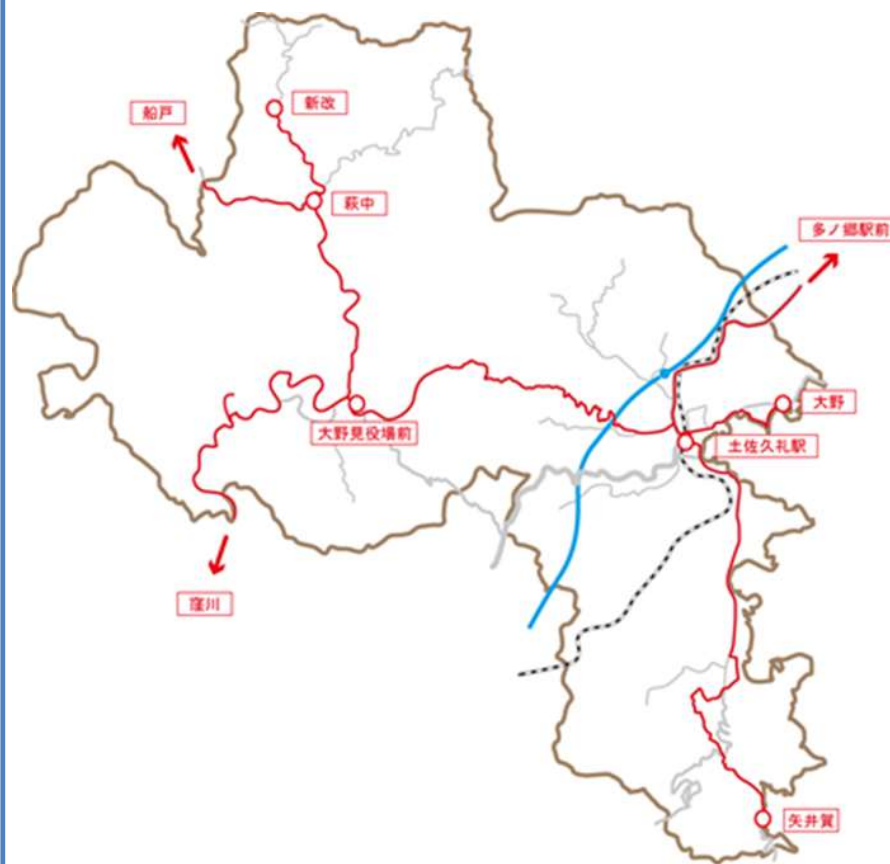
中土佐町における主な公共交通概要

- 鉄道：JR四国(土讃線)
- バス
(幹線)
 - ①窪川駅を起点とし、四万十町と中土佐町主要施設を經由する民間事業路線
 - ②須崎を起点とし、中土佐町矢井賀を經由する民間事業路線
- (フィーダー)
 - ・町内を運行しているコミュニティバスは、全7系統あり久礼地区では、5系統が土佐久礼駅を起点に運行しており、大野見地区では、2系統が旧大野見北小学校を起点に運行している。

これまでの協議会の主な取組

- ・フィーダー交通の試験運行
- ・交通空白地域におけるフィーダー交通の導入
- ・各地域での利用者ニーズ等ヒアリング調査
- ・既存路線再編計画検討
- ・公共交通利用促進に係る広報

中土佐町の公共交通ネットワーク図



協議会の構成員

高知県、中土佐町、高知高陵交通(株)、(有)高南観光自動車、(有)中土佐ハイヤー、(社)高知県バス協会、中土佐町民代表者、高知運輸支局、須崎土木事務所、須崎警察署

中土佐町地域公共交通協議会

地域内フィーダー系統
事業評価(平成26年度)

地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照

前年度の事業評価における課題

運行初年度のため、前年度の事業評価における課題はないが、現在の運行状況と利用者・各地域でのヒアリングを通じて、利用者数の少ない系統や交通空白地域への新たな系統の確保など、継続し各路線状況、利用者ニーズの把握を実施して行く必要がある。

定量的な目標・効果

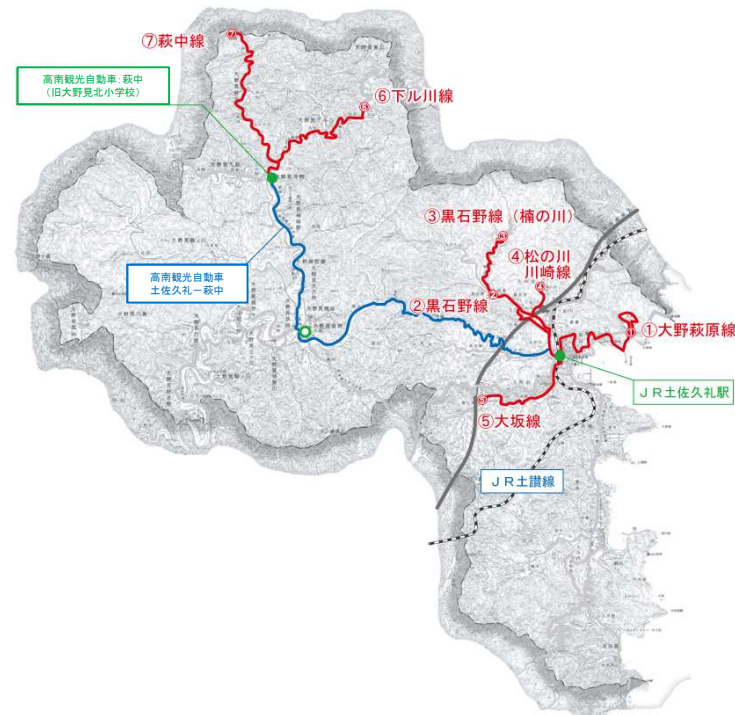
中土佐町全域
(目標)

- ・系統(1)は、1日当たり利用者数を6人以上
- ・系統(2)は、1日当たり利用者数を3人以上
- ・系統(3、4)は、1日当たり利用者数を8人以上
- ・系統(5、6、7)は、1日当たり利用者数を5人以上

(効果)

- ・当該路線を維持することにより、公共交通空白地域の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。また、路線バスと連携することにより、広域的な移動利便性が向上する。

フィーダー系統図



協議会における検討

- 協議会の開催状況 1回開催
- ・第1回(6月5日)
平成27年度地域内フィーダー系統確保維持計画

「定量的な目標・効果」達成のための取組

- ・中土佐町内の各地区において、公共交通に関する意見要望等ヒアリングを実施した。

自己評価

事業実施の適切性

- ・(1)大野萩原線、(3)黒石野線(楠の川)、(4)松の川川崎線、(6)下ル川線、(7)萩中線
：公共交通空白地域へのバス運行により、新たな需要を確保できた。また、移動手段を持たない方にとっては、通院や買い物など日常生活に必要不可欠な公共交通として定着し、今後も継続していく必要がある。
- ・(2)黒石野線、(5)大坂線
：公共交通空白地域へのバス運行により、新たな需要はあったものの利用者数が少ないため、今後は、より利用しやすく継続可能な路線となるよう、運行曜日の変更やダイヤの改正等を検討していく必要がある。

「定量的な目標・効果」の達成状況

- ・(1)大野萩原線、(2)黒石野線、(3)黒石野線(楠の川)、(4)松の川川崎線、(5)大坂線、(7)萩中線
：年間を通して1日当たりの利用者数平均が目標を達成できていない。今後は、より利用しやすい路線となるよう、買い物や通院等への利便性を向上させるため、運行曜日・ダイヤの見直し等を検討していく必要がある。
- ・(6)下ル川線
：年間を通して1日当たりの利用者数平均が目標を達成しており、公共交通の空白地域の解消、病院、買い物へのアクセス向上等住民生活の質的向上が図られ、幹線へ接続できる交通手段の確保ができた。

自己評価から得られた課題と今後の対応

- ・中土佐町内の各系統路線別に利用状況やニーズを細やかに把握するとともに、これに応じた運行効率向上のための路線見直しや高齢者等の移動機会確保に努め、地域公共交通の利用促進に向けた広報や地域へのヒアリング等の取り組みを進めていく必要がある。